「防災意識に関するアンケート」リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

甚大な被害を生んだ東日本大震災、昨年の熊本地震や鳥取県中部地震と、近年立て続けに大規模地震が発生している。さらに南海トラフ巨大地震や、豪雨による土砂災害など、いつ起こるかわからない自然災害や危機事象から府民の生命、財産を守ることは府の使命でもある。しかしながら、大規模災害では、自治体職員自身も被災者となり、行政機能が麻痺するなど公助の限界が明らかとなった。これまで災害対策の中心とされてきた公助はもとより、府民自らあるいは、地域等が連携して被害から少しでも免れるための自助、共助による取組みの重要性が高まっている。本調査では府民の防災に関する意識や行動を調査し、今後の施策の資料とする。

1. 調査仮説

仮説１　地域活動（防災以外）に参加したことがある人ほど、防災活動や家庭での災害への備えに取組んでいる。

仮説２　普段から自然災害がおこることを意識をしている人や、防災等地域活動に参加している人ほど、「自助」・「共助」の意識が高い

仮説３　同居家族に子どもや年配の方がいる人は、「自助」・「共助」の意識は高いが、実際の取組みに差はない。

仮説４　一人住まいの人は、防災活動への参加や災害への備えをしている割合が低い

1. 調査対象　国勢調査結果（平成27年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、18歳以上の大阪府民1,000サンプル
2. 質問項目

本質問　２０問

1. 普段から自然災害が起こることを意識しているか(ＳＡ)
2. 【意識している】具体的にどのような自然災害を意識しているか（ＭＡ３）
3. 南海トラフ巨大地震の認知(SA)
4. 災害に対する家庭での備え(ＭＡ)
5. 【食料・飲料水に備えている人】何日分用意しているか(SA)
6. 【Q４備えていない人以外】家での備えをしたきっかけは何か(ＭＡ)
7. 【Q４備えていない人】その最も大きな理由(SA)
8. この1年間での防災活動の参加状況(SA)
9. この1年での防災以外の一般的な地域活動の参加状況(SA)
10. 自主防災組織の認知(SA)
11. 今後どういう人たちと防災の取組みをしていきたいか(MA)
12. 地域で防災の取組みをするのに障がいになっていると感じる事(MA)
13. 自助・共助・公助に関する認識（表組）
14. 今後さらに取組んでいきたいこと(SA)
15. 災害の経験(SA)
16. 津波浸水想定区域内外(SA)
17. 住まい(SA)（戸建て、マンション低層階・高層階）
18. 世帯構成(SA)
19. 家族構成(MA)
20. 職業(SA)
21. 検証方法

仮説１　Q９×Q４、Q８

仮説２　Q1、Q８、Q９×Q13

仮説３　Q19×Q13、Q8、Q4

仮説４　Q18×Q4、Q8